

謹啓 春寒しだいに緩む候、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、突然ではございますが、四十年の歴史を刻んできました日本革工芸会は本年三月末をもちまして解散することに成りました。

始まりは、昭和五十二年全国皮革振興会の作品発表会の会場へ通産省生活産業局の担当課長が視察に見え、作品をご覧頂いた事がきっかけでした。これを受けて、皮革工芸作品の全国公募展開催の実現に向けて実行委員会が結成されました。

そして翌年の昭和五十三年に全国公募展、第一回日本革工芸展を池袋の西武デパートを会場に開催を実現するに至りました。

奇しくも最後の公募展となった、平成二十九年三十五回展は第一回展と同じ池袋の地、東京芸術劇場での開催でした。

光陰矢の如してございます。

創設の指導に当たられた通産省生活産業局、ご協力を賜りました皮革産業界、皮革工芸作家の諸先輩方々の湧き立つような思いと尽力から、早四十年の時は

流れ、人口減少の波とグローバル化は各所に波及しております。

日本革工芸会も唯一無二の目的である公募展開催は会員の減少に加え運営実行する人材の確保の困難という現実直面して、解散という苦渋の選択を致しました。

何卒この選択にご理解を賜ります様お願い申し上げます。

四十年の長きに渡りご支援とご協力を頂いた関係各所、産業界、作家の皆様に厚く感謝申し上げますと共に、皆様の今後のご健勝をお祈り申し上げます。

略儀ながら書面をもちましてご挨拶申し上げます。

敬 具

平成三十年三月吉日

日本革工芸会

代表理事 小室公平

事務局長 糸井清子